

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

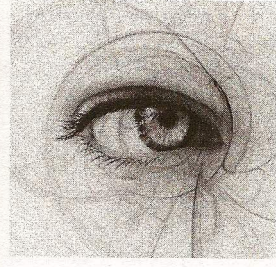


嶋津良智 著 リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第39回 第三者の目を持つとう

大きな権限と責任を持つ上司であるからには、常に客観的に「すべきこと」を優先して判断する、セルフマネジメント能力を身に付けましょう。

上司だって人間なので、さまざまな欲を持っています。金銭欲、ビジネス欲、性欲、自己顕示欲、そして食欲など、欲にはたくさん種類があります。しかし、



私利私欲を制御 正しいかどうかで判断

セルフマネジメント能力は、上司に限らずどんな立場の人にも必要なものです。やはり大きな権限、責任を担っている上司には、

特に必要と言えるでしょう。

セルフマネジメントがしっかりとできていない上司は、「好きか、嫌いか」「やりたいか、やりたくないか」などの尺度で判断をしてしまいがちです。

「○○物産の担当者より、△△商店の人の方が好きだから、○○△商事から仕入れることにしよう」

「部下の鈴木より、森田の方が気に入っているし、この仕事を任せよう」

このような判断を下しているとき、本当に大切なこと、必要なことを見失い、部下の成長を妨げたり、部門の業績の足を引っ張ったりすることにつながります。この

ような考えで判断している人が経営者や会社幹部だとしたら、会社をつぶしてしまいますことだってあるでしょう。

上司なら、私利私欲を超えたところで「会社にとつて本当に必要なことか」「この取引先を選ぶことで、会社に利益をもたらすのか」「好き、嫌いではなく、正しいのかどうか」という尺度で判断しなければなりません。

判断の基準は自問 親兄弟に胸を張れるか

このような判断をするには、自分の心の中に第三者の目を持つことが効果的で

す。第三者の目を持つコツとしては、自分の家族や親兄弟に胸を張って言えることかどうかを考えてみることです。そうすることで、常に客観的にものごとを捉えることができます。もし親兄弟に胸を張って言えないような、個人的事情で判断しているときには、警鐘を鳴らしてくれるでしょう。

部下や会社全体に与える影響の大きさを自覚し、「したいこと」ではなく、「すべきこと」を優先して判断できるように高い意識を持ちましょう。それこそが、セルフマネジメント能力なのです。

(『上司のルール』より転載)